

平成24年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校の地域における評判は近年の努力が実を結び改善されつつあるが、決して風評が改善された訳ではない。地域や保護者から信頼を勝ち得るにはさらなる学校改善が必要である。退学者や懲戒処分者が以前に比べて大幅に改善されたものの、まだまだ減らす必要がある。退学者及び懲戒処分者のさらなる減少に取り組み、地域に貢献する学校となり、保護者や地域から信頼されると同時に生徒自身が本校を母校としてプライドを持てる学校となることをめざす。

さらに、本校に入学した生徒の全員が卒業し、生徒それぞれが自己実現を果たし、希望の進路に向かって歩めるような学校をめざす。そのために、今後は学力向上にしっかりと取り組む。個に応じた教育に転換するとともに、一層きめ細かな指導を行い、基礎学力を確実に身につける教育を実施し、卒業時には生徒全員が自己実現できる夢と希望に溢れる学校になることをめざす。

1. 生徒の笑顔が溢れる学校
2. 保護者や地域から信頼され地域に貢献し愛される学校
3. 生徒の夢と希望を育み自己実現がかなう学校

2 中期的目標

(1) 確かな学力の定着へ向けた取り組みを推進する。

平成23年度入学生から教育課程を大幅に変更し専門コースを導入した。いずれも2年生になってから選択させるため、1年生ではガイダンスを充実させ、1年の秋に自己の適性や進路を決められるように指導する。

昨年度、2年次の専門コースの各科目、教養コースの各科目の教材開発を行ったが、3年次の教材開発を行う（教材開発チーム）。

○「分かる授業」の推進

1年生、2年生で実施している国語、数学、英語で習熟度別授業については、学習の到達目標を見直すと共に、さらなる効果的かつ有効的な授業展開の工夫改善に取り組む。

○専門コースの充実

「環境科学コース」・・・理科系に興味のある生徒を集め、その能力を高める。ホタルの人工飼育、農業体験等との関連付けにより、自然環境を守る意識をもつ人材を育成する。

「国際文化コース」・・・4年制大学への進学希望者に対して大学で学ぶ意欲を引き出すと共に大学へ入学後、授業について行ける学力を身につける。日本の伝統や文化についても学び誇りを持つ人材を育成する。

○学校設定のコースの授業の充実

義務教育段階の数学（算数を含む）、理科等の学び直しを行い、社会に出て困らないための基礎学力を徹底して定着させる取り組みを行う。

○漢字力、英語力の開発及び定着

漢字力の定着

1年生終了時に全生徒に漢字検定を受けさせ、漢字力について全国標準の力と自信をつけさせる。

英語力の定着

2年生終了時に全生徒に学力に応じた英語検定を受けさせる。全員4級以上の修得をめざす。全国標準の力と自信をつけさせる。

(2) 生徒が個々に抱いている進路目標を達成すべくキャリア教育の充実に取り組む。卒業時には進路未決定者を0にする。

○入学時からキャリア教育に取り組み、夢と希望を語らせるとともにしっかりと目標を立てさせる。

○就職希望者は100%の合格をめざし、徹底した学力をつけさせる。

○大学進学も十分可能であることを1年生から自覚させ自身を持たせるとともに目標に向かって学習する意欲を引き出す。

○「総合的な学習の時間」を活用し「志学」を3年間で35時間を設定し、3年間を見通したカリキュラムを設定する。

○キャリア教育に対する3年間を見据えた指導計画を策定する。

○グアムとの国際交流を推進し定着させ、生徒にグローバルな視点を持たせる。

(3) 入学した生徒が全員卒業できる学校にする。

○教育相談システムを充実させ、生徒の状況を把握し、よりよい方向へ導くような取り組みを充実させる。精神的な病気等については外部機関との連携を行う。

○学校生活支援チームを充実させ、退学防止へ全校一丸となるように取り組む。

(4) 環境教育の推進及び地域貢献をおこない、地域にはなくてはならない学校となる。

○ホタルの人工飼育や農業体験などにより地域との交流を推進し、関係諸機関と連携し、環境を守る人材を育成すると共に地域の環境保全の核となる。

○ハートピア泉北（老人介護施設）や太平寺幼稚園、福泉中央保育所など地域の施設との交流を推進し地域に根を張ると共に、生徒のコミュニケーション能力や自尊感情を養う。

(5) I C Tの活用

○電子黒板を積極的に導入し、分かる授業の取り組みを推進する。

○教材を共通のコンテンツとして電子データで作成し、同一の教科で同一レベルの教科指導が行えるようにする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔平成 年 月実施分〕	学校協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
(1) 確かな学力の定着	1. 「分かる授業」をめざした授業改善 2. 漢字力、英語力の開発及び定着	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別授業のあり方を再検討する。 平成23年度末に習熟度別授業に対する総括を当該教科から提出をさせ、それに基づいた改善を図る。 分かる授業の研究及び開発と実施 ・授業改善の実施 生徒からの授業評価に基づいた授業改善計画を早い時期に提出させて授業改革に取り組む。 ・漢字力の定着 1年生終了時に全生徒に漢字検定を受けさせ、漢字力について全国標準の力と自信をつけさせる。同時に、学習する目標や意欲を引き出す。また、教員には具体的な指導目標を与える。 ・英語力の定着 2年生終了時に全生徒に学力に応じた英語検定を受けさせる。全国標準の力と自信をつけさせる。同時に、学習する目標や意欲を引き出す。また、教員には具体的な指導目標を与える。 	<p>1. 習熟度別授業を実施する科目は長期欠席者を除いて全員が単位を修得することをめざす。 生徒の授業アンケートにおいて「授業がとても良く解る」の回答が60%を越えることをめざす。</p> <p>2. 漢字検定4級合格率が60%以上をめざす。 英語検定4級合格率60%以上をめざす。</p>	
(2) 進路指導の充実	1. 大学進学希望者に対する指導の充実 2. 「実践的キャリア教育・職業教育支援事業」を活用し就職率の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・大学との連携を継続するとともに新規連携校を模索する。 H23年度の取り組みを継続し、桃山学院大学・プール学院大学・帝塚山学院大学・太成学院大学との連携を継続するとともに強化する。 近畿大学等上記以外の大学へも大学見学会を開催し生徒の進学意識を高める。 ・保護者に対して奨学金や国の教育ローンの説明会を1学期に実施し、大学進学への資金計画をサポートする。 ・H24年度からスタートする2つの専門コース及び教科「教養」の3年時に学習する教材と学習プログラムを開発する。 ・「職業適性診断テスト」及び「キャリアカウンセラー」「外部講師」を活用して生徒自身のモチベーションを高め、進路に対する意識を高めるとともに第3学年の学年団を中心に全校あげて就職先の開拓を行う。 	<p>1. H24年度の大学進学者数前年度比1.5倍をめざす。(30名以上)</p> <p>2. H24年度の年度末時点の就職率が97%以上になることをめざす。(3年後には100%) 就職試験1次合格率を60%以上にする。(3年後には80%)</p>	
(3) 退学者数の減少	さらなる退学者及び懲戒処分者の減少	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談の活性化及び充実 教育相談室の整備 中退防止のためのプロジェクトチーム 中退になりそうな生徒の情報交換と防止の取組を教育相談委員会、中退防止コーディネーターを中心に組織的に推進する。 ・規範意識の向上 生徒理解を推進し、きめ細かな指導を充実させる。 ・家庭訪問の充実 ・学年集会の開催(適宜実施) ・全校集会の開催(校長から直接生徒に話しかける機会を設ける。始業式、終業式以外に1学期に1回実施を目標とする) 	退学者数及び懲戒処分者数の前年比20%減少をめざす。	
(4) 環境教育の推進及び地域貢献	1. スクールカラー・サポート事業の推進(ホタルの人工飼育継続及び発展) 2. 近隣施設や地域との交流の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・H21年度から開始したホタルの人工飼育を改良し幼虫の生存率を上げる。 ・えさとなるカワニナの効率的な養殖を開始する。 ・地元と連携した取り組みに発展させるため「ホタル保存会」(仮称)を設立し、地元の力を活用した事業に発展させ今後の継続性を高める取り組みを行う。 ・H24年度からスタートする「環境科学コース」を視野に入れた学習プログラムの開発を行う。 ・地域の老人介護施設や幼稚園、保育所などの交流を推進する。 ・農業実習を通じての地域との交流を推進する。 	<p>1. H25年の6月には100匹以上の成虫を乱舞させる。</p> <p>2. 地域や生徒と入所者や園児との交流を10回以上おこなう。</p>	